



# SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3  
TEL / FAX 024-567-5322

Web <http://www.nposhalom.net>  
E-mail [info@nposhalom.net](mailto:info@nposhalom.net)

発行責任者：大竹静子

## 子どもひまわり大使派遣報告

### ひまわりプロジェクト地域交流事業 京都、笠岡を訪問

京都府と岡山県笠岡市へ子どもひまわり大使を派遣しました。各引率者からの報告を一面・二面に渡って掲載します。

**(1) 京都を訪問(八月四日～十日)**  
京都に避難している当事者の団体「みんなの手」代表・西山さんを通じ、丹後半島に位置する与謝野町・宮津市での「ひまわりプロジェクト」が始まった。日本でも数少ない天然の鮭や鮎が遡上する清流が流れ、豊かな森と美しい日本海が自慢の土地である。六月初旬の種まきに始まり、子どもひまわり大使(福島市内を中心とした小学生十一人・中学生二人、計十三人)を迎え入れる準備を着々と進めて頂いた。

京都後の地域コーディネーターである「丹後の自然を守る会」の蒲田さんが川遊び、由良ミカンの摘果体験、天橋立でのビーチクリーニング、そして海水浴や観光まで準備し、交流会では進行役を務めて下さった。北海道やセネガルから駆け付けたジャンベのチームも交流会を大いに盛り上げた。

子どもたちは事前に四回のワークショップに参加。シャロームやひまわりプロジェクトについて



▲迎え入れてくれた京都の皆さんと子どもひまわり大使。満開のひまわり畑で。

学び、伊達の桃農家を見学して交流会で発表する内容を考えた。東日本大震災当日や避難した経験などを話す参加者もあり、来場者は子どもたちの過酷な経験と真摯な姿勢に胸を打たれた。福島からのメッセージは、原発から三十km圏内にお住まいの方々に貴重な教訓を残してくれたと確信する。

与謝野町から宮津市に移り、星空観察や海洋生物調査を行った。顕微鏡の世界は小さな生き物の不思議に満ちていた、更に京丹後市網野地区に移り、

京都府内に戻り、西本願寺の宿舎に泊めていただいた。広大な敷地内の様々な建物や一般公開されていない場所まで丁寧にご説明頂きながら見学できたことは、千年を超える文化都市・京都ならではの体験だったことと思う。

全体を通じて参加者たちは放射能を気にすることなく山に川に海に親しみ、特別の配慮をもって受け入れて下さる方々と交流できた。大人たちと触れ合う中で、受けた恩を次へとバトンタッチして頂けるような人物になってくれることを願わずにいられない。

「みんなの手」の西山さんをはじめ、多くの方々のご協力のお陰でひまわり大使ツアーイン京都は感動を得て終了することができた。すでに来年を期待する声もきかれることが、初めて実施された地域での広がりと共に感を表していると感じている。  
(京都引率・吉野)

**(2) 笠岡を訪問(八月四日～七日)**  
一昨年よりひまわり大使の派遣が始まり、笠岡市を訪れるのは今年で三年目。子どもひまわり大使は福島県内に住む子どもたちで構成されており、今回は小学生から高校生までの七名の子どもたちが笠岡を訪問した。

お盆休み、孫たちは夏休み。季節の風物詩ともなっている帰省ラッシュ、東京から地方への帰り、私たちはその逆で、東京スカイツリーを求めて東京へ。

車に乗せてもらって孫たちと一緒に、道中も思いのほか短く感じる。電車で行くと電車の乗り継ぎで遠く感じる新宿、渋滞もなく車ですぐいと新宿御苑へ。周囲のビル街の中に、忽然と林が現れる。公園のスケールが違う。そこはなんとポケモンのメッカとか、スマフォを手にした人たちが往来する都会のオアシスだった。

八月四日、福島駅に集合した子どもひまわり大使たち(二面へ)

都会を知る探訪旅行、孫たちと一緒に東京を楽しんだ二日間でした。  
(T.O)